

解氷

かいひょう

春、張りつめていた氷がとけだすことを意味する、春の季節の言葉。久しくみていなかった雪の景色が広がり、春の日差しでとけていく様子を伺えました。



2月は寒波による積雪、寒い上になかなか天候にも恵まれず、ねぎたちの成長も足踏みとなってしまう、農人たちも歯がゆい思いをしています。あたたかな日差しは、間も無く。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

収穫の日を迎え3頃に雪に触れた冬葱たち

昨年秋の10月頃、少し暑さの峠を越えたような時期に市内と亀岡で定植を行い、冬葱として育ったものをお届けします。

寒い時期を過ごす冬葱は、成長具合もゆっくり、じっくりと育ちます。

2月は寒波到来で、京都市内も積雪となるような日もあり、冷え込みに拍車がかかりました。雪による被害は一部受け、

ねぎの原料が潤沢にある状況ではないので厳しい心持ちですが、今あるねぎを大切にしてお届けしています。寒い季節でこそ楽しめる冬葱、ご賞味ください。



古都・事・言 3つの「こと」を伝えます
ことねぎだより

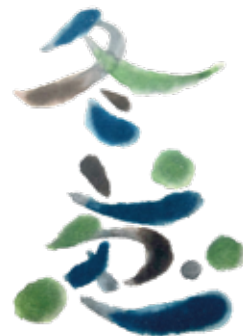
NO.214

2025年3月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社

KOTO GROUP
4A



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信



底冷えの寒さから移り変わる季節へ

3月からは2025年シーズンの始まりを告げる定植も始まります。3月に定植を行ったねぎたちは、6月頃に皆さまへお届けできる生産計画です。今年の2月は例年よりも寒かったですが、3月からは気温の高い日も多くあるような予報も聞いているので、昨年と同じく、ねぎ坊主が出てくるのも早いかもしれない...と、農人一同気がかりです。九条ねぎの食べた時のやわらかさ、食味と美味しさのため、葉が固くならないようにと、ねぎ坊主を遅らせることができるように葉面散布などして対応できるようにと考えています。冬場のビニール被覆も回収作業などもあり、春に向けて人数も時間も必要で忙しくなります。そんな中、2月より新たな農人仲間が加わりました。農業の楽しさはもちろん、自然や作物に合わせて働くことの大切さも伝えながら、より良いねぎを作っていけるよう精進してまいります。

とある日の農人日記。

積雪を除去しながらビニール被覆の補修を実習生と一緒に行いました。寒さで手がかじかみ、足先も痛いくらいなのに実習生たちは笑顔で元気でした。見習わないと、と元気をもらいました。(亀岡・甲斐)



こと京都は「野菜を食べてよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組めます。